

タイトル:平成 29(2017)年度 教育セミナー(第 13 回)

日時:2017 年 9 月 14 日(木)~17 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室(303)

喜田川 たまき (筑波大学グローバル教育院)

以前から本中東☆イスラーム教育セミナーについて関心があったのですが、調査等により日程が合わず、これまで参加を見合わせてきました。今回はじめてセミナーに参加させていただいて、あらためて中東あるいはイスラーム研究の対象自体の多様性と、アプローチの多様性に驚かされました。特に印象的だったのは、講師の先生や AA 研のスタッフの方々の建設的な質疑と、参加している学生の皆さんの、非常に活発な意見交換です。博士課程の学生に限らず、修士課程、またオブザーバーとして参加されている学部生の方々も、ご自身の専門分野に限らずに鋭い質問をして明確にご自身の意見を述べられており、あらゆる研究からいい意味で貪欲に学んでいこうとする姿勢に感銘を受けました。また、最終日のフィードバックの際に多くの参加者がおっしゃっていましたが、セミナーやプレゼンテーション以外の時間の、先生方や学生の方とのコミュニケーションの機会が非常に重要でした。質疑応答の際にはできないような、自分のテーマにより近い形でのディスカッションが可能で、博論執筆にとっても参考になったほか、また他分野の方のディシプリンや資料の収集、フィールドワークの工夫点など、プラクティカルにも他では得られないような充実した情報を得ることができました。何より、同じ中東あるいはイスラーム地域を研究対象とするものとして、若い世代の方々と知り合いになれたのはとても刺激的でした。

他方、6 人の先生方によるセミナーは、地域研究はもとより歴史学、社会学、文化人類学、舞踊学や都市研究など多岐に渡り、先生方の高度に専門的な研究知識はもとより、対象へのアプローチの方法が非常に勉強になりました。特に、資料の不足や政治状況の悪化などで研究が困難に直面した時のご対応、資料が豊富な時代への移行や、可能な資料でのアプローチの方法などがとても参考になりました。また研究対象に対するご自身の分析手法についても再考し、より有効な新しい方法を模索するなど、講師の方の研究者としての柔軟な姿勢に、今後人文社会科学の課題となる専門分化の超克と知的社会への貢献の視座を見させていただきました。また、冒頭にも書きましたが講師の先生方や AA 研のスタッフの先生方の、発表に対するアドバイスが、学会などでの質疑応答とくらべてとても前向きで、博論に向けての具体的な問題点、改善点を指導されていて、まさに実践的博論指導となっていたので大変参考になりました。研究をする上で必要となる論理的思考や、無理のない論拠など、分野を超えて重要なポイントがいくつもあり、またディシプリンによって異なる見方があることも、先生方の議論から明確になったりと、多くを学ばせていただきました。

さいごに、台風が迫る中、参加者のために準備をしてくださった AA 研の先生方、また事務局の千葉様に改めて御礼申し上げます。